

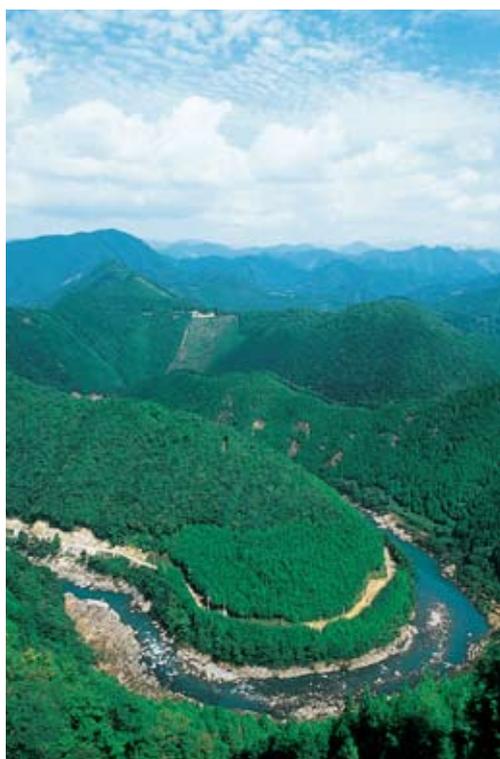
第3章 わかやまの自然と生活



日高川の山村



関連地域の位置



日高川中流の曲流と山並み

流域の山林と生活

日高川は、護摩壇山(1,372m)から、けわしい山々の間をほぼ西に流れ、御坊市で紀伊水道にそそいでいます。日高川の谷すじや下流の人々は、この川の豊かなめぐみをうけて生活しています。日高川は日高地方の人々にとっては「母なる川」なのです。

日高川上流の龍神(田辺市)と中流の美山・中津(日高川町)の3地区は、総面積の90%以上をけわしい山地が占める山村で、山林の大部分が民有林となっています。そして、モミ・ツガ・ケヤキなどの天然林よりも、スギ・ヒノキの人工林が多くなっています。1960(昭和35)年ごろから、経済が発展して家庭用の燃料が薪炭からガス・電気にかわり、さらに、外国から安い木材が輸入されるようになったことなどで、山の産物に対する関心もうすれてきました。3地区の第一次産業人口は1965年には全人口の60%を占めましたが、2005(平成17)年には25%しかなく、林業に従事する若者が少なくなり後継者が必要となっています。

今、この地域では、温泉の開発やスポーツ・文化施設を整えたり、シイタケ・木炭・花木栽培・木材加工などの特産品の生産に力を入れています。また、猪や鹿・猿などから農作物の被害を防ぐ対策や、都会からの農業をしたいと希望する人たちの受け入れに力を入れています。

昔の筏流しと川舟

日高川流域の木材は、古くから日高川の水の流れをたよりにして、「管流し」や「筏流し」によって河口の御坊へ集められました。管流しを日高川流域では、「かり川流し」とよび、せき止めた水を勢いよく流すときに木材を一本一本川下へ流し出す方法です。たいていは、木材は筏に組んで流しましたが、筏は5・6本の丸太をフジカズラで組み、それを15組つなぎ合わせたものです。大正時代には、2人の筏師が乗



日高川下流の御坊の木材市場(1955年ごろ)

*1 2005(平成17)年5月に川辺町・中津村・美山村が合併して日高川町が誕生した。本節では、旧村名を地区の名前として記している。
*2 日高川町の美山地区、中津地区などでは赤い実のつく千両が年末に京阪神へ出荷される。

り、滝や瀬のある難所をあやつりながら、上流の田辺市龍神地区から日高川町中津地区の船津まで2～3日、船津から御坊までは約5時間下りました。しかし、水量の少ない冬には2日ぐらいかかりました。

筏流しの中心となって活躍したのは、美山・中津地区の人たちでした。明治から大正時代には、筏流しは最も盛んになり、河口の御坊市や中津地区の船津などに、筏宿が軒をつらねてにぎわいました。熊野川や四国の吉野川、四万十川まで筏流しの出稼ぎに行く人もあり、また、明治の末ごろには鴨緑江まで出かけて行きました。



日高川水運で栄えた船津（日高川町）

1921（大正10）年、紀南索道が開通し、木材は龍神地区から田辺まで運ばれるようになりました。その後、次第にトラックで田辺に出されるようにもなり、盛んに行われていた筏流しは、1953年の大水害のあと姿を消しました。

日高川流域の木炭・薪・シイタケなどの産物は、馬や人夫、「滝船」によって船津まで運ばれ、そこで川船に積み替えて御坊まで送られました。川船は江戸時代の中ごろからありましたが、明治時代の中ごろには、ますます盛んになりました。中流の船津には、5軒の船問屋があり、20隻の川船でにぎわいました。

川船は長さ8m、幅1.5mほどで、三反帆をはり、木炭であれば130俵も積み、二人の乗り手が4～5時間かけて御坊まで下りました。上りには食料品や日用品を積みこんで人が引っぱりました。道路改修がすすんだ大正時代の末ごろに、川船から陸路の輸送にかわりましたが、このように日高川は、地域の人々の生活にとって大きな役割を果たしました。

椿山ダムと水利用

日高川では、今までに何度か洪水が発生しています。なかでも、1953年7月の記録的な集中豪雨は、谷あいの耕地も道も、日高川にかかる52本の橋もすべて飲み込み、死者・行方不明者約300人、流失家屋約2,200戸という大災害をおこしました。その後、復旧工事がすすめられ、1967年には、日高川の総合開発事業として、洪水を防いだり水力発電を目的として、日高川町椿山に多目的ダムがつくられることになり、1988年3月、県内最大の県営椿山ダムが完成しました。



椿山ダムと国道424号（日高川町）

* 1 中華人民共和国と朝鮮民主主義人民共和国との国境を流れる川で、アムノック川（朝鮮名）・ヤールー川（中国名）ともよばれている。

* 2 田辺市龍神村中山路から田辺市文里の港まで木材や物資をワイヤーロープで運んだ。

* 3 急流を乗り切るため、樽でつくった丈夫な船。

* 4 3枚の布（反物 巾36cmの布）をはった帆。